



新眉山クラブ
松井 大助
議員

▼し尿、生活雑排水処理について

Q ①公共下水道と合併処理浄化槽のそれぞれの利点②合併処理浄化槽の個人設置型と市町村設置型のそれぞれの利点③公共下水道と合併処理浄化槽の併用で進めていくというが、合併処理浄化槽だけではやれないのか。

A ①公共下水道の利点は、年間の維持管理費が安い。合併処理浄化槽の利点は、事業費が安いこと、事業期間が短く実施できることが有利である。

②個人負担の設置費用については、個人設置型が約六十%、市町村設置型が約十%である。設置後の保守点検、維持管理費、法定点検等の費用は個人設置型は個人負担となり、市町村設置型は市が行うが、毎月の使用料が個人負担となる。市町村設置型は、現地調査や入札の実施設計、使用料徴収のための人件費等が発生する。導入については、慎重に検討する必要がある。

③浄化槽を設置するスペースがないような区域もあるので、公共下水道と合併処理浄化槽で対応したい。

▼新規事業について

Q ①食育推進計画策定事業②島原市次世代育成支援行動計画策定事業③親育ちプログラム事業はどういう内容のものか。

A ①食育基本法の制定に伴い、島原市食育推進計画を策定しようとするものである。趣旨としては、心の健康と豊かな人間形成づくりのため、家庭、地域、学校、各種団体及び生産者が共同し、地域の特性を生かした取り組みを行うものである。

②次世代育成支援推進法の制定に伴い平成十七年からの十年の行動計画を策定。策定から五年後に見直しをすることとされており、二十一年度で、二十二年度から二十六年までの後期計画を策定するため、子育て家庭の生活実態を把握するためのアンケート調査を行っている。

③地域子育て支援の拠点となる幼・保育園の保育士、幼稚園教諭、保健師等を対象として、このプログラムを振興促進役であるファシリテーターを養成し、通園している子どもを持つ親を対象に「親育ち講座」を実施する。

【その他の質問項目】

◇教育問題

◇白土湖水のサクの撤去について



真政の会
安藤 幽明
議員

▼市庁舎建設について

Q 懇話会の構成と着工までのスケジュールはどうなっているのか。

A 市庁舎建設懇話会のメンバーとしては、各種団体や関係行政機関のほか、市民からも公募したいと考えている。スケジュールについては、交付税措置がある合併特例債を活用することになると、二十七年まで事業を完了する必要がある。

▼公共下水道事業

Q ①公共下水道はこれからも積極的に推進するのか。②処理区域の見直しとは、どのようなことか。③合併処理浄化槽整備とどのように組み合わせを進めようとしているのか。

A ①財政状況等を考慮し、よりコンパクトな事業を目指している。②人口密集地を中心に、建設費、維持管理費を含めた経済比較や地形等を考慮し見直しを進めている。③公共下水道処理区域以外は合併処理浄化槽を整備する必要があると考えている。

▼水産業の振興について

Q トラフグの陸上養殖の現状はどうか。

A 市場単価の落ち込みや生残率の低下により非常に厳しい経営状況であり、現在経費の節減や販売単価の確保、生残率の向上に努めておられる。

Q 「フグ」の調理資格を持つ人は何人いるのか。また、資格取得を奨励する必要があると思うがどう考えているのか。

A 県南保健所に確認したところ正確な人数はわからないが、フグの処理施設の届け出は七十二施設ということである。資格取得の奨励については、長期的な視点から研究していく。

▼観光の振興について

Q 天草地域との観光圏づくりの枠組みが協議されているが、なぜ今天草なのか。

A 歴史的、地理的にも古くからのつながりがあり、観光庁が推進する観光圏計画で島原半島と天草地域が一体となり取り組むことになっている。また、二泊三日の滞在型観光を広域的に行うことになっており、天草地域と一体となり取り組むことが望ましいと判断した。

【その他の質問項目】

◇教育について